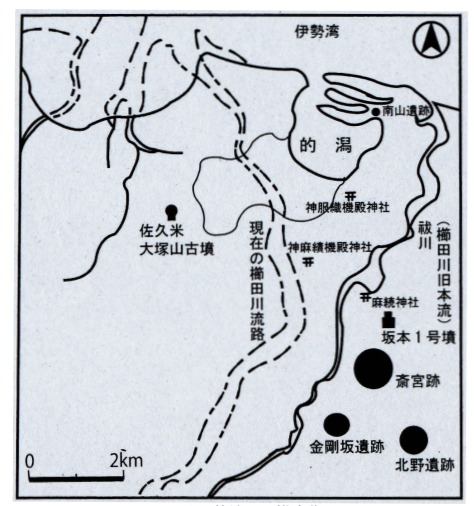


【万葉集の歌に詠まれた松阪の古代の港！？「マトカタの浦」】

『万葉集』巻第一「二年壬寅、太上天皇の参河国に幸しし時の歌」
 丈夫の 得物矢手挿み 立ち向かひ 射る円方は 見るに清潔けし⁽¹⁾

この歌は、『万葉集』⁽²⁾のなかの一首で、松阪地域に存在したと考えられている古代の港「マトカタ(円方・的形・的潟)の浦」⁽³⁾を詠んだものとされています。「丈夫の 得物矢手挿み 立ち向かひ 射る」までが「マト」という言葉を導くための前書きで、マトカタの浦の清々しい海辺の景色を詠んだ歌です。今回は、このマトカタの浦について紹介します。

まず、この歌の題詞⁽⁴⁾に注目してください。題詞は「二年壬寅、太上天皇の参河国に幸しし時の歌」となっています。さらに、当時の歴史書『続日本紀』⁽⁵⁾の大宝二年(702年)の記事にも「太上天皇、参河国に幸したまふ」という記述があります。ここでの太上天皇は持統天皇⁽⁶⁾のことなので、題詞と『続日本紀』の記事から、この歌は大宝二年に持統天皇が参河国⁽⁷⁾に行幸⁽⁸⁾した時に詠まれたものとわかります。この時、持統天皇はこのマトカタの浦から参河国



へ向けて出航したと考えられています。

次に、「マトカタ」という名前の由来です。なぜ、この港はマトカタと呼ばれたのでしょうか？ その答えは、マトカタの浦の形にあります。『伊勢国風土記』逸文⁽⁹⁾にマトカタの浦の名前の由来が「的形の浦とは、此の浦の地形、的に似たり。因りて名と為せり」と記されています。つまり、浦の形が弓矢を当てる円い「的」のような形をしていたことから、マトカタと名づけられたというのです。さらに、『伊勢国風土記』逸文ではその後「今は已に跡絶えて江湖と成れり」という注があり、注が書かれた時には、港だったマトカタの浦の海側は埋まり、湖となってしまっていたようです。では、マトカタの浦はどこに存在したのでしょうか？

残念ながら、長い年月を経るうちに浦としての地形が失われ、また、現在ではマトカ

タという地名も残っていないため、マトカタの浦が存在した正確な場所はよくわかっていません。しかし、『延喜式』⁽¹⁰⁾神名帳の多気郡の部に「服部麻刀方(はとり「マトカタ」)神社」の記載があり、さらに、『はたとの御神事之日記』の宝徳3年(1451年)の記事に「在所かいと田、まつかた・つぶかた二社」⁽¹¹⁾とあることから、マトカタの浦は現在の東黒部地域、そのなかでも、中の川の河口あたりに存在していたのではないかと考えられています。

さらに、このマトカタの浦の港としての機能が古墳時代まで遡り、倭王権が東国へ向かうための港であったという説があります。マトカタの浦があったとされる場所の近くに3基の古墳からなる佐久米古墳群⁽¹²⁾があり、その中の1基、大塚山古墳(全長・推定45m、帆立貝式古墳)から金銅装の冑⁽¹³⁾が見つかっています。金銅装を施した冑の類品が大塚山古墳⁽¹⁴⁾という大王墓や倭王権を構成する有力古墳群などに副葬されており、大塚山古墳の規模の古墳には分不相応な副葬品と考えられ、このような副葬品がおさめられた背景として、大塚山古墳に埋葬された人物が倭王権の東国へ向かうための港「マトカタの浦」の管理を担っていたため、倭王権から直接下賜された可能性があるというのです。

現在、中の川の河口部にはマトカタの浦を思わせるものは何も残っていません。しかし、『万葉集』の歌に詠まれ、持統天皇が参河国へ向かったと考えられる古代の港が松阪に存在したことを想像すると、なんだかロマンを感じますね。(担当)

(10)927年にまとめられた古代の法典。この中に、当時の官社に指定されていた神社の一覧がある。(11)かいと田は現在の埴内田町のことで、「まつかた」はマトカタが変化したものと考えられている。(12)佐久米町の大塚山古墳・丸山古墳・糠塚古墳のこと。現在、大塚山古墳は消滅し、他の2基も原形が損なわれている。(13)現在、この冑はアメリカのメトロポリタン美術館に収蔵されている。(14)仁徳天皇陵とされ、日本一の規模を誇る。

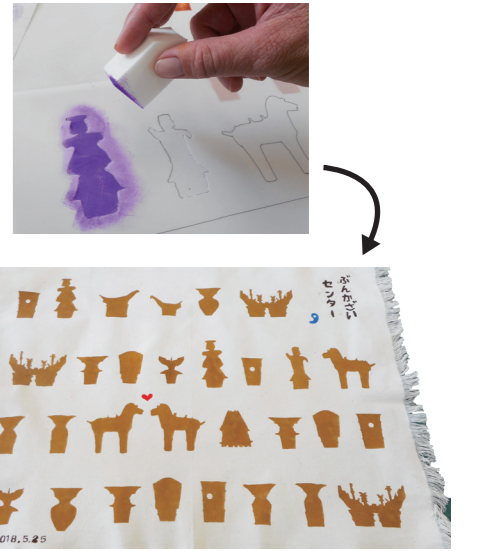
※この記事を書く際、『松阪市史 第6巻 史料編 文化財』(1979年)、『船形埴輪と古代の埋葬 宝塚1号墳』(穂積裕昌著、2017年、新泉社)、『伊勢神宮の考古学』(穂積裕昌著、2013年、雄山閣)、『東海の万葉歌』(市瀬雅之ほか編、2000年、おうふう)などを参考にしました。

【夏季企画展「南山遺跡」の開催とワークショップのお知らせ】

松阪市文化財センターは、7月21日(土)から9月2日(日)まで、「はにわ館」第2展示室にて夏季企画展「南山遺跡」を開催します。南山遺跡は、今月号で紹介したマトカタの浦の近くに存在した海辺の遺跡です。企画展に合わせ、7月21日(土)午後1時半から2時半まで当館学芸員によるミュージアムトークをおこないます。

また、7月28日(土)・29日(日)にワークショップ「ステンシルであそぼう!」を実施します。ハンカチ(200円)・ランチョンマット(300円)の上に型をおいて、その上から布用絵の具をスポンジや刷毛で押し当て柄をつけていきます。型は、文化財センターらしくいろいろな埴輪のものを用意しました。自分だけのハンカチ・ランチョンマットを作ってみませんか？

皆さまのご来館をお待ちしています！(担当)



(1)意味…男子が矢を持って立ち向かって射る、そのマトカタの浦はまことに清々しい眺めである。詠んだ人は舎人娘子。(2)日本最古の歌集。(3)マトカタの漢字での表記は様々あるため、ここではカタカナに統一した。(4)詩や歌のはじめに、その詠まれた事情などを記した言葉。(5)古代の歴史書。主に奈良時代を扱う。(6)古代の女帝。太上天皇となった初めての天皇。(7)三河国のこと。現在の愛知県南東部。(8)天皇の外出。(9)風土記は奈良時代に国別に編纂された地誌。現在、『伊勢国風土記』自体は失われているが、風土記が残っていた時に他の本などに引用されて残っている部分があり、それを『伊勢国風土記』逸文という。

松阪市文化財センター 夏のイベント♪	7月				8月					備考
	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日	4日	5日	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
《中学生ボランティアガイド》			休館日							・場所は「はにわ館 第1展示室」。 ・実施時間帯は入館無料。
10:00~12:00	○	○								
13:00~15:00	○	○								
《夏休みワークショップ等》										ステンシルであそぼう! 場所: 第3ギャラリー 時間: 10:00~14:00(受付は13:30まで) 材料費: ハンカチ…200円 ランチョンマット…300円 スタンプラリー 場所: 文化財センター内 時間: 9:00~16:00
ステンシルであそぼう!	○	○								
スタンプラリー										

文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

7月の休館日は、2日(月)、9日(月)、17日(火)、23日(月)、30日(月)、8月の休館日は、6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)です。開館時間は9:00~17:00です。

- 【はにわ館】 入館料 100円 (18歳以下無料) *入館は16:30まで
- 第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」
 - 第2展示室 ■夏季企画展「南山遺跡」 7/21(土)~9/2(日)
 - 第2展示室 ■夏季企画展「南山遺跡」ミュージアムトーク 7/21(土) 13:30~14:30

- 【ギャラリー】 入場無料
- 第1G ■松阪伝統文化 華道 子ども教室展といけばなショー 7/1(日) 9:00~16:00
 - 第1・2・3G ■第4回 松阪の偉人たち展 7/4(水)~7/8(日) 9:30~16:30 ※最終日は15:00まで
 - 長尾オルガン演奏 4日(水)10:30~ 8日(日)13:00~
 - 第1・2G ■まつさかのほいくえん 園児造形展 7/28(土)~8/5(日) 9:30~16:30



バーコード読み取り(文化財センター情報)